

# 介護福祉研究センター 令和元年度事業報告

## 地域連携施設

### 介護福祉研究センター

#### I. 会議関係

##### 1. 運営委員会

###### 1) 第1回 平成31年4月18日(木)

- 〔議事内容〕・運営委員会の開催日時  
・研究員の継続状況  
・前期センター会議及び介護福祉セミナー  
・センター事業担当者の確認  
・センター紀要「介護・福祉研究」第6号  
・定例研究会  
・介護福祉研究第5号の配布  
・三重県文化会館との連携

###### 2) 第2回 令和元年5月30日(木)

- 〔議事内容〕・定例研究会  
・前期センター会議及び介護福祉セミナー  
・新規研究員の推薦  
・センター紀要「介護・福祉研究」第6号  
・高校生等見学バスツアー  
・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動  
・三重県文化会館との連携  
・HPの更新及び活動内容報告CMS構築

###### 3) 第3回 令和元年6月27日(木)

- 〔議事内容〕・定例研究会  
・センター紀要「介護・福祉研究」第6号  
・高校生等見学バスツアー  
・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動  
・「ふれんどえいむ」の啓発

###### 4) 第4回 令和元年7月18日(木)

- 〔議事内容〕・高校生等見学バスツアー  
・センター紀要「介護・福祉研究」第6号  
・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動  
・定例研究会

###### 5) 第5回 令和元年8月24日(土)

- 〔議事内容〕・「介護・福祉研究」第6号の執筆者の決定  
・第2回介護福祉セミナー  
・三重県文化会館との連携

###### 6) 第6回 令和元年9月26日(木)

- 〔議事内容〕・定例研究会  
・本学での高齢者との交流事業  
・第2回介護福祉セミナー  
・後期センター会議  
・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動  
・三重県文化会館との連携  
・新規研究員の推薦

###### 7) 第7回 令和元年10月10日(木)

- 〔議事内容〕・定例研究会  
・本学での高齢者との交流事業  
・第2回介護福祉セミナー  
・後期センター会議  
・施設との交流事業  
・新規研究員の推薦  
・地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

###### 8) 第8回 令和元年11月7日(木)

- 〔議事内容〕・後期センター会議  
・第2回介護福祉セミナー  
・本学での高齢者との交流事業  
・施設との交流事業  
・今後の運営委員会の日時確認  
・定例研究会

###### 9) 第9回 令和元年12月6日(金)

- 〔議事内容〕・後期センター会議  
・第2回介護福祉セミナー  
・定例研究会  
・施設との交流事業  
・新規研究員の推薦  
・「介護・福祉研究」第6号

10) 第10回 令和2年1月16日(木)

〔議事内容〕・定例研究会

・「介護・福祉研究」第6号

・次年度事業計画について

11) 第11回 令和2年2月13日(木)

〔議事内容〕・次年度定例研究会

・事業報告書作成について

・新規研究員の推薦

・次年度第1回介護福祉セミナー

・「介護・福祉研究」第6号

12) 第12回 令和2年3月9日(月)

〔議事内容〕・令和2年度センター会議

・「介護・福祉研究」第6号

・次年度第1回介護福祉セミナー

・「ふれんどえいむ」登録者強化

## 2. センター会議

1) 前期センター会議 令和元年6月6日(木) 参加者：9名

於) 介護福祉研究センター

・平成30年度事業報告(案)

・令和元年度事業計画(案)

・新規研究員の紹介 城田裕子(学識経験者)

清水友里恵(本学卒業生)

吉川幸希(本学卒業生)



辞令交付の様子

2) 後期センター会議 令和元年12月11日(水) 参加者：9名

於) 介護福祉研究センター

・令和元年度事業経過報告(案)

・令和2年度事業計画(案)

・令和2年度予算要求(案)

・新規研究員の紹介

寺家尚美(本学非常勤講師)

相楽美津(学識経験者)

川政朱音(本学卒業生)

萩野智美(本学卒業生)

村井千紘(本学卒業生)

中村 匠(本学卒業生)

関司実春(本学卒業生)

近澤明莉(本学卒業生)

出馬宏海(本学卒業生)

堀江紗弥加(本学卒業生)



後期センター会議辞令交付

12月現在研究員数：42名

## II. 研究活動

### 1. 定例研究会

介護福祉研究センターでは、地域の福祉施設等の関係者や介護福祉関係で活動していただいている方々、卒業生を研究員に招き、2020年3月現在42名の研究員が在籍しています。毎月一回の定例研究会を開催し各分野の情報交換を行い、地域に還元できるよう学びあっています。場所は、原則介護福祉研究センターまたは介護実習室で行っています。

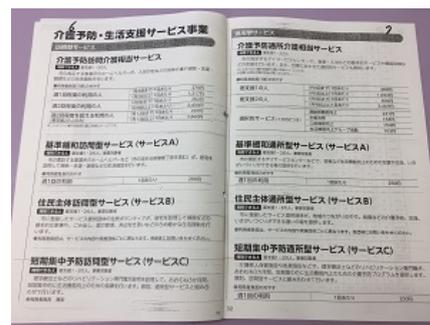
1) 第31回定例研究会 5月9日(木) 16:30~18:00 参加者10名

・テーマ「介護保険要支援者等に対する総合事業の実施状況について」

・発表者：蒔田勝義研究員

・内 容：元社会福祉協議会職員、元鈴鹿医療科学大学准教授で現在も高田短期大学で教鞭をとっている蒔田勝義研究員から、「新地域支援事業」（介護予防・日常生活支援総合事業、一般的に「総合事業」という）について、近年の動向と事業の内容に関する話を伺いました。

この総合事業は拡大の一途をたどる介護保険費用の抑制を図るために、これまで介護保険の対象であった要支援認定高齢者を介護保険制度の対象から外し、平成27年度から3年をかけて市町村が行う総合事業に移行させるものです。また、新たに地域包括支援センターによる基本チェックリストにもとづいたチェックに当てはまった人（事業対象者と認定された人）も対象とする、予防的な視点にもたった事業です。この動きに伴って地域にはこれまでの制度を補完する地域のシステム（住民主体の支援体制づくり）が求められており、住民ボランティアなど多様な担い手の必要性を、ご自身の実践例を交えてご説明いただきました。三重県内でも地域性があり個々の地域に応じた事業とその担い手をどのようにつくり出し定着させていくか、課題についても話し合われました。



蒔田研究員の資料の一部

## 2) 第32回定例研究会 7月11日(木) 16:30~18:00 参加者 5名

・テーマ「本学介護福祉士養成課程における実習指導の検討—現状報告と今後の展望について—」

・発表者：服部優子研究員

・内 容：『高田短期大学 介護・福祉研究』第5号に掲載の「本学介護福祉士養成課程における実習指導の検討—本学保育士養成課程の実習指導と比較して—」をもとに、研究の概要と今後の研究計画について報告がありました。保育実習からの示唆として、提出書類の種類や内容、実践的演習の実施に関する箇所については、今後の介護実習への反映も検討していく段階にあることが報告されました。今後の研究については、同様の内容に関する調査を県内各養成校に広げて調査する必要性や、実習先である施設の実態について調査する必要性について説明がありました。その後の質疑応答では、調査の方法や具体的なアンケート内容に関する検討がおこなわれ、今後の研究の方向性について話し合われました。

## 3) 第33回定例研究会 9月19日(木) 17:00~18:30 参加者 9名

・テーマ「日本人学生と留学生のグループ学習における効果と課題」

・発表者：川喜田多佳子研究員、寺家尚美(本学TA:当時)

・内 容：近年、高田短期大学の介護福祉コースでは留学生が増加し、それに伴い指導が難しくなってきたことから、平成29年度より情報基礎演習のティーチングアシスタント(以下、TA)を2名体制にしましたが、今年度はとうとう留学生の割合が日本人学生の割合を上回り、引き続き教育の困難性という問題を抱えています。昨年度の取り組みからは、TA2名体制のメリット、授業進行におけるタイマー使用(時間管理)の効果、グループ学習の成果を得ることができた一方で、協働意識の向上、高齢者向け電子絵本の作成、介護福祉現場に直結する課題の提供などに加え、manabaの活用やオリジナルテキストの作成などが課題として残ったことが報告されました。今年度は日本人学生と留学生半々のグループを作り、日本人学生をリーダーにしてタイムマネジメントを行いながら高齢者レクリエーション用電子絵本を作成し分担して発表することを最終課題としました。そこから見えてきた課題として、留学生が増えてTAの負担が増大したこと、日本人学生への対応が十分できなかったこと、その結果日本人学生のモチベーション低下につながったことが新たに報告されました。日本語能力やパソコン能

力の低い留学生の増加は、今後も高田短期大学の重要な課題になると考えられます。両先生の今後の研究には学内の他の先生方も注目しています。



制作からわかる留学生の特徴



終盤頃留学生の図形描画技術



日本人学生が留学生に読み聞かせ

#### 4) 第34回定例研究会 10月10日(木) 17:00~18:30 参加者 10名

・テーマ「介護実習におけるルーブリック評価表導入の経過及び課題」

・発表者：福田洋子研究員

・内容：福田研究員が高等教育研究会で取り組んでいる介護実習にルーブリック評価を導入する際の課題と実際に導入した際の成果に関する共同研究の結果について報告いただきました。

評価者が評価水準を選択できるルーブリック評価票では評価基準が明確になり、客観的な評価が可能になるため、施設間、評価者間の評価



点のばらつきが解消される一方で、選択される各項目の設定や内容について、施設や評価者によって判断に困ったり項目の内容を誤解することがないように改善が求められることがわかりました。今回報告されたルーブリック評価票の内容には実習を受け入れている施設職員からの意見が反映されており、具体的かつ客観的な内容に高められていることが理解できました。

実習生の自己評価と施設の評価者の評価も強い正の相関関係が出ており、実習後の指導にも有効に活用できることがわかりました。一方で、日本人学生と外国人留学生に同一の評価票を使う際の課題をはじめ、いくつかの課題が提示され、今後の継続的な取り組みの必要性が明らかにされました。

#### 5) 第35回定例研究会 11月7日(木) 17:00~18:30 参加者 10名

・テーマ「児童養護施設における安全委員会の実践報告」

・発表者：黒宮拓哉研究員、清水佳代(本学卒業生・聖マッセヤ子供の家所属)

・内容：聖マッセヤ子供の家では安全委員会を立ち上げる前、児童間の暴言・暴力や児童から職員に対する暴言・暴力が多発し、施設内の物品が壊されることも頻繁にあったそうです。生活環境における暴言・暴力は学校生活にも表れており、先生や友達に対する暴言・暴力が多発していたとのことでした。さらに、「飛び出し」という、衝動的に施設から抜け出す行為も頻繁に起こっていました。このような背景から安全委員会方式を導入し、2017(平成29)年5月には立ち上げ集会も開催しました。

九州大学の田島誠一氏が提唱した安全委員会方式は、潜在的暴力と顕在的暴力という2つのレベルの、①児童から児童、②児童から職員、③職員から児童という3種の暴力を対象としており、「叩かない、口で言う」、「相手が悪くても叩かない」、「やさしく言う」を合言葉にしています。



安全委員会方式導入後の入所児童に対する継続的な聞き取り調査の結果、新規入所児童があると一時的に暴言・暴力は増加するものの、子どもたちの口から語られる暴言・暴力に関する事案の件数が徐々に減少していることがわかってきました。

参加者からは、児童養護施設の現状や子どもたちの様子について様々な質問が出され、質疑応答を通して安全委員会方式に対する理解をさらに深める機会となりました。

#### 6) 第36回定例研究会 令和2年1月16日(木) 17:00~18:30 参加者10名

・テーマ「連続と不連続の狭間～分ける前に考えたいこと～」

・発表者：山本啓介研究員

・内容：実験を織り交ぜながら報告いただきました。元理科教員としての知識や経験を活かした参加型のグループワークのなかで、ボールや3cm四方の木材、様々な素材を使って、何をどのような基準で分けるかを実践し、「時と場合に応じて、視点は無限に」あることを学びました。



近年の何事も数値化する傾向のなかで、数値化できないものや数値化にふさわしくないものまで数値化し、それによって分類、分別するだけでなく、時として分離、分断が行われていることに触れ、人間も様々な視点、基準で分けられていることについて問題が提起されました。本来、連続している物(者)を何らかの基準によって線引きし分断する社会について、「分ける必要性は、社会の成熟に反比例する」という結論から、分けなければならないこともあるなかで、分ける必要が本当にあるのかどうかをよく考え、分断を生まない成熟した社会の実現にむけて取り組む必要性を確認しました。

#### 7) 第37回定例研究会 令和2年2月13日(木) 17:00~18:30 参加者17名

・テーマ「不安な表情の多い高齢者への介護福祉士のかかわりについて」

・発表者：近澤明莉研究員、千草篤磨研究員

・内容：本研究の対象ケースは突然泣き出したり不安な表情をみせる80代の失語症の女性で、現場で実際に関わりながら調査し、分析結果を実践に反映した取り組みについて報告してもらいました。近澤研究員たちの取り組みでは、どのような場面でどのように泣くのかを半年近く観察し記録したうえで、結果を分析し職員間で共有し日常の関わりに反映していました。職員が感情失禁の原因を探りながら試行錯誤して関わったものの、結果的には明確に原因を探り当てることが出来なかったとのことでしたが、対象の女性が泣く頻度はかなり減ったとのことでした。近澤研究員たちはこの取り組みを通して、当事者に積極的に目を向けることにより、それが結果として当事者の変化を促したのではないかと結論づけていました。「問題」→「関わり」→「変化」→「問題の明確化」→「より良い関わり」というプロセスのなかで、当事者と支援者が相互に変容し、その結果が問題の減少として表れたというものです。今回のケースでは泣いていることを「泣いている」と捉えるのではなく、なぜ泣いているのか興味を持ちその背景を探ることが当事者と支援者相互の変化を促し、関係性を改善し当事者のQOLを向上させるというものでした。



### Ⅲ. 実施事業

#### 1. 介護福祉セミナー

##### 1) 第1回介護福祉セミナー

令和元年6月9日(日) 13:30~15:30

参加者40名

テーマ「老いと演劇～認知症の人と“いまここ”を楽しむ～」

講師：菅原直樹 (OiBokkeShi 主宰、俳優・介護福祉士、

平成30年度〔第69回〕芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞)

※集まった受講者は地域の熱心な勉強会のグループの方々や卒業生、研究員など多彩な顔触れで、菅原先生のワークショップ形式の進行に魅了され演技を体験しながら泣いたり笑ったり大変盛り上がり、楽しみながら認知症について学ぶことができました。OiBokkeShi ×三重県文化会館「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトのサイトもご参考にしてください。



「OiBokkeShi」説明中の菅原先生



Yes アンドゲームの様子



ドキュメンタリー番組視聴中

##### 2) 第2回介護福祉セミナー

令和元年12月14日(土) 13:30~15:30

参加者23名

テーマ「いきいきシニアライフのための食育講座」

講師：鷺見裕子 研究員

※嗜好のしくみや基本五味（甘味、塩味、酸味、苦味、旨味）についての講義、旨味の特徴を活かした減塩効果やおいしさが増す組み合わせ、また「味わい力」などについて演習を行い具体的に学びました。



## 2. 白子公民館の高齢者と学生の交流サロン事業

### 1) 第1回(通算第21回)

令和元年6月1日(土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者11名、学生ボランティア15名、中川千代研究員、伊藤利美研究員

内容: 「いつでも夢を」合唱および簡単な体操、学生自己紹介、名刺交換ゲーム



### 2) 第2回(通算第22回)

令和元年7月6日(土) 10:30~11:30

参加者: 高齢者12名、学生ボランティア10名、伊藤利美研究員

内容: 指体操、コケッココー体操など



### 3) 第3回(通算第23回)

令和元年8月3日(土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者10名、学生ボランティア3名、中川千代研究員、伊藤利美研究員

内容: 「いつでも夢を」体操、百人一首大会



### 4) 第4回(通算第24回)

令和元年9月7日(土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者12名、学生ボランティア2名、

中川千代研究員、伊藤利美研究員、相楽美津研究員

内容: プチ自慢トーク大会、スクラッチアート製作、「いつでも夢を」体操



5) 第5回 (通算第25回)

令和元年10月5日 (土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者12名、学生ボランティア7名、中川千代研究員、相楽美津研究員

内容: 学生の「介護実習プチ報告会」、跳ねるピョンかえる対戦



6) 第6回 (通算第26回)

令和元年11月2日 (土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者13名、学生ボランティア10名、中川千代研究員、相楽美津研究員

内容: 人間すごろく (5グループ対抗)、景品あり



7) 第7回 (通算第27回)

令和元年12月7日 (土) 10:30~12:00

参加者: 高齢者14名、学生ボランティア8名、伊藤利美研究員

内容: 高齢者の有志の企画 (フラダンス、歌に合わせた体操)



8) 第8回 (通算第28回)

令和2年1月11日 (土) 10:00~11:30

参加者: 高齢者10名、学生ボランティア10名、  
中川千代研究員、伊藤利美研究員、相楽美津研究員

内 容：公民館館長より2年生9名に対し感謝状と副賞（彫刻家長谷川八壽雄先生の作品）贈呈

「介護は最高！ー私の奮闘記ー」日本人2年生の寸劇、ネパールダンス、高齢者の花笠音頭、懐かしい歌の合唱など



### 3. 地域の高齢者に対する介護福祉啓発活動

1) 津市桜橋1丁目ひばりの会サロン活動 6月16日(日)

参加者：高齢者6名、学生ボランティア3名、中川千代研究員

内 容：中川研究員の畑で、じゃがいもと玉ねぎの収穫体験を高齢者・学生と一緒に行いました。



2) 第1回一身田桜町にっこサロンへ講師派遣 9月23日(月)

講 師：中川千代研究員 参加者：26名

内 容：簡単な体操、昭和の歌イントロクイズ、跳ねるぴよんカエル製作



3) 芋掘り交流会 10月26日(土)

参加者：白子公民館高齢者14名、  
ボランティア学生2名

内 容：本学ボランティアコーディネーター杉谷哲也先生のご協力にて白子公民館実践講座受講生所有の畑で芋掘りを行いました。

新聞掲載：伊勢新聞10月27日(日)付



- 4) 白子公民館高齢者を本学に招いての交流 11月8日(金) 於) 本学介護実習室  
 参加者：高齢者21名、引率職員2名  
 内容：2限目「介護過程演習Ⅴ」2年生16名(福田洋子研究員) 思い出カルタ等  
 3限目「介護概論」1年生32名(中川千代研究員)  
 高齢者から“思い”を聴き取るためグループ演習  
 昼食をカフェテリアでとり、その際も学生が案内とサポートを担いました。



#### 4. 鈴の音(視覚障害者向け朗読会)との連携事業

鈴の音の紹介：「鈴の音」は、広報、週刊誌、一般図書及び雑誌をCDに収録し、音訳をすることにより、視覚障害を持つ人々との交流会を図り、社会連帯を深めることを目的とした音訳グループです。

本センターでの活動内容：鈴の音より井上蘭枝先生を招き、毎月1回、音訳に必要な知識を学びながら、読み方や声の出し方などの練習を行っています。福田洋子研究員担当。

活動実績：5月15日(水) 10:40~12:10 参加学生：2年生3名  
 7月10日(水) 10:40~12:10 参加学生：2年生2名  
 10月9日(水) 10:40~12:10 参加学生：2年生3名

#### 5. 高校生等を対象とした介護啓発事業

1) 介護見学バスツアー 8月6日(火) 10:00~15:00

見学先：特別養護老人ホーム報徳園

デイサービスきらめき、グループホームかなしょうず園

参加者：日本語学校留学生17名、高校生0名、学生ボランティア5名、

日本語学校教員引率1名、中川千代研究員、服部優子研究員、川喜田多佳子研究員

内容：施設概要紹介、施設利用者との交流、食形態の異なるメニュー試食体験



2年生主導のレクリエーション



デイサービス見学・説明



食形態の異なるメニュー試食体験

#### 6. 施設との交流事業

1) 高田光寿園との交流事業 12月11日(水) 13:00~16:10

・介護福祉コース2年生16名「介護福祉演習Ⅱ」(福田洋子研究員)

・高田光寿園の入居者とレクリエーションを通して交流しました。

※高齢者の意見~まとまった人数の学生と触れ合うことができ、久しぶりに若い人の声が聞けてうれしかった。

## 7. 三重県文化会館(三重県文化振興事業団)との共同研究

1) 「介護に寄り添う演技」体験講座

6月7日(金) 3限目、4限目

講師:菅原直樹

(俳優、介護福祉士、OiBokkeShi主宰)

参加者:本学介護福祉コース2年生16名

新聞掲載:6月25日(火)朝日新聞地域版掲載

三重テレビニュース:9月24日(月)放送



アイスブレーキング中

認知症のある方の感じ方体験



朝日新聞地域版記事 2019.6.25 掲載

2) 「老人ハイスクール」DX演劇公演

9月28日(土) 29日(日) 14:00~16:00

ロビーにて開催された棺桶体験コーナー、高齢者疑似体験コーナーのスタッフボランティアを行いました。

学生ボランティア派遣:7名



開場時のロビーの様子



棺桶体験コーナーで写真撮影



高齢者疑似体験コーナー

## IV. 研究成果の発行

1. 介護福祉研究センター紀要「高田短期大学介護・福祉研究」第6号(令和2年3月発行)

執筆希望書を編集委員会で協議し執筆者を決定しました。研究論文1編、研究ノート2編、実践報告2編、授業実践報告1編に原稿依頼しました。

## V. 学生ボランティアの組織化「ふれんど えいむ」

### 登録者募集事業

本センターの事業（特に地域貢献）等にボランティアとして参加してくれる学生を募り、意識付けを図るため、登録会員証（名刺サイズ）の発行を行いました。

#### 〔活動内容〕

- ・ 介護見学バスツアーボランティア
- ・ 白子公民館交流サロンボランティア
- ・ 鈴の音との連携事業参加ボランティア
- ・ 書類発送等、作業ボランティア など



学生に発行した登録会員証のフォーム

登録会員数（在学生のみ）	23名
4月～9月のべ活動人数	50名
10月～3月のべ活動人数	45名